

在上海東亞同文書院調查

(第五輯)

中國經濟全書

東亞同文會發行

明治四十一年五月廿八日印刷
明治四十一年五月卅一日發行

自十五輯八冊定價金貳拾貳圓
至十二輯八冊定價金貳拾貳圓

發行者兼

東京市赤坂區溜池町二番地

右代表者

東亞同文會

柏原文太郎

印刷者
佐久間衡治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所
株式會社秀英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所
東亞同文會編纂局

東京市赤坂區溜池町二番地

凡例

一、本書第一回刊行之際全部ヲ八輯トナシ第二回刊行トシテ第一回ノ殘部タル第五輯ヨリ第八輯マテヲ出版シ商品ニ關スルモノハ商品編トシテ別ニ刊行スル豫定ナリシカ今回第二回出版ヲ實行スルニ當リ編纂上ノ都合ニヨリ其第五輯ヨリ第八輯マテヲ第五、六、七ノ三輯ニ改メ其商品ハ分チテ五輯トナシ亦同シク本刊ニ收メテ第八、九、十、十一、十二輯トセリ即今回刊行スルモノハ第五輯ヨリ第十二輯マテヲ刊行シ前刊續刊合セテ十二冊以テ本書ヲ完結ス
 一、本書調査ノ任ニ當リタルモノハ第一輯ノ序文ニ記セル如ク其數殆ント三百人ニ及ブモ特ニ今回刊行スル八輯ノ各編ヲ分擔調査シタルモノハ左ノ九十餘名ナリトス茲ニ其姓名及擔當課目ヲ掲ケテ其刻苦勤勞ヲ世ニ表彰セントス

支那鐵道

郵便、電信

同	同	同	同
商務學士	川口市之助	長崎縣	
同	有安一雄	長崎縣	
福田千代作	廣島縣		
角義滿	山口縣		
工藤外衛			
青森縣			
同			
古川善六郎			
宮城縣			

度量衡

商務學士 村岡敬四郎 佐賀縣

永井彥吉 宮崎縣

坂井敬義 茨城縣

新居長太郎 栃木縣

西田安二郎 奈良縣

古賀雄四郎 佐賀縣

加藤要三郎 新潟縣

森田元次郎 廣島縣

和歌山縣

森美材 島根縣

北脇寛造 廣島縣

後藤富賀美 廣島縣

三宮勝平 新潟縣

大森益太郎 岐阜縣

藤富敬二 山口縣

同 同 商務學士

同 安田義治 廣島縣

海上保險

貨幣

支那銀行

同 商務學士

同 商務學士

同 商務學士

同 商務學士

同 商務學士

同 海上保險

商帮ノ勢力及風俗

牙行 商務學士 藤崎廣助 鹿兒島縣
報關行、渝行及通關所 同 藤本一二郎 福岡縣
招牌 商務學士 兩川藤次郎 岩手縣
廣告及商標 商務學士 宮下真次 群馬縣
對清貿易 商務學士 三浦義臣 大分縣
農業 商務學士 林田勇 宮崎縣

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
同 商務學士 谷口英二郎 永井靜一 鳥羽田藏 福岡縣
同 商務學士 岡本理治 永井靜一 福岡縣
同 商務學士 松尾秀一 高知縣
同 佐々木滿三郎 山口縣
同 川畑豊治 廣島縣
馬場米市 奈良縣

米	商務學士 永井彥吉	宮崎縣
荳、荳餅及荳油	同 沼直治	熊本縣
砂	商務學士 澄川友敬	山口縣
棉	同 後藤保三郎	愛知縣
脂肪油 脂肪及蠟	商務學士 東島平次郎	千葉縣
花	同 鹿兒島縣	
炭	商務學士 津村勝之輔	和歌山縣
木	同 白瀧築太郎	愛媛縣
材	同 森謹	廣島縣
同	同 石渡安太郎	北海道
同	同 木内俊一郎	秋田縣
同	同 丹隆	秋田縣
同	同 今井邦三	長野縣
同	同 繁次	長崎縣
同	同 長崎縣	
同	同 商務學士	
同	同 商務學士	
早川繁次	同 早川繁次	
長崎縣	同 長崎縣	

牧畜、牛皮、製革骨

相良利吉 佐賀縣
權藤八洲生 福岡縣
松田藤男 鹿兒島縣

羊毛及鴨子

同同同同同同

鑄海產物

同同同同同同

鑄山

同同同同同同

工業及製紙業燐寸

同同同同同同

商務學士
後藤直藏
功愛媛縣
野口餘波
中野三郎
佐賀縣
秋田縣

同同同同同同

陶 磁 器	絹 織 物	綿 織 物	紡 績 業 及 綿 絲	精 米 業 及 製 麵
-------------	-------------	-------------	----------------------------	----------------------------

同	同	同	同	同	商務學士	志波源太都	佐賀縣
同	同	同	同	同	商務學士	伊庭野清七	北海道
同	同	同	同	同	商務學士	坪井與吉	岐阜縣
同	同	同	同	同	白山勇二郎	三重縣	
同	同	同	同	同	石崎廣次郎	三重縣	
同	同	同	同	同	荒川弘	新潟縣	
同	同	同	同	同	坂上又治	栃木縣	
同	同	同	同	同	森本榮次郎	茨城縣	
同	同	同	同	同	荒岡清	德島縣	
同	同	同	同	同	田尾伴次郎	岡山縣	
同	同	同	同	同	大松林	京都市	
同	同	同	同	同	大分縣		
商務學士 新羅祐三	商務學士 田尾伴次郎	商務學士 大松林	紡績業及綿絲	精米業及製麵	商務學士 坪井與吉	志波源太都	佐賀縣
岐阜縣	京都市	大分縣			白山勇二郎	三重縣	
					石崎廣次郎	三重縣	
					荒川弘	新潟縣	
					坂上又治	栃木縣	
					森本榮次郎	茨城縣	
					荒岡清	德島縣	
					田尾伴次郎	岡山縣	
					大松林	京都市	
					大分縣		

出版業及文房具

商務學士 奈良一雄 青森縣

同 村井明四郎 京都市

商務學士 市村友之 新潟縣

同 古崎疆廣島縣

雜貨

同 今井賢一郎 山形縣

一、本書第五輯ニ添ヘタル支那交通全圖ハ始メ鐵道、電信、郵便、水路及礦產地ヲ各別圖ニ調

製スルノ豫定ナリシカ其煩ヲ避ケ其精ヲ極メ且ツ光彩ヲ添ヘテ讀者ニ一目瞭然タラシメン

ガ爲メ特ニ大地圖一葉ニ編製シタルモノナリトス

支那經濟全書序

支那帝國は昔時實に東亞人文の淵源にして我國の如き亦之を待つに師父の國を以てせり而して十九世紀の後半西歐の文明東漸して我國先づ其化育を受け東洋に崛起するに及んで支那帝國は獨り世界の進運に一著を輸し今や却て我國の提撕誘掖に俟つ所甚た多からんとす而して清國人文の啓發、利源の開拓は彼我國運の盛衰消長に關するもの亦渺しとせず然れども其人文の啓發や利源の開拓や清國の事情を審にせずして而して之れを行はんとするか如きは恰も是れ舵なくして舟を遣らんとするの類なり夫れ清國は地域濶大、東西南北民俗流風を異にし其經濟組織及商習慣の複雜なる久しく彼の地に在るも尙ほ能く各般の事情に

通すること甚た難く且典籍の據て指針となすべきもの頗る稀なるを以て人をして常に隔靴搔痒の嘆に堪へざらしむ東亞同文會爰に見る所あり幾多専門の士が多年實地に就き苦心調査したる所を纂錄して浩瀚なる大冊を爲し之を支那經濟全書と名け世に公にするに至りたるは寔に時代の要望を充たしたものにして對清經營の寶典となすを得へし今此書を繙て喜悅禁する能はず聊か所感を述べて卷頭に序す

明治四十一年五月

大藏大臣 松田正久 誌

支那經濟全書序

方今商業氣運一轉。將漸旺于東亞。而支那實爲之樞軸矣。故講求東亞商業之方者。非先獲支那經濟之情。惡乎能之。但支那也。建國如彼其舊也。疆域如彼其廣也。黎庶如彼其衆也。衆則俗殊。廣則物蕃。舊則事之所由來者遠矣。其情豈易獲哉。雖然。列國之於支那。本土最近者我也。交通最久者我也。人種相類。文字相同者亦我也。先獲不易獲之責。我竟不可辭也。東亞同文會有見乎此。夙有支那經濟全書之編。精查究探。閱歲七

裘葛與事者數百人。於其業也可謂勤矣。今茲戊申。其書全成。刊將竣。索予敍。予覽之。書凡十二輯。經濟情狀詳備明覈。綱目悉張。細大無遺。可謂不愧於全書之名矣。想此書之出。釋講求者之憾。固不待言。我貿易之業。又將有見一層進境焉。謂非邦家之慶乎哉。且此書先成於我。我將有辭於列國。而列國亦我惠之依。謂非邦家之光乎哉。予喜作之叙。

明治四十一年五月

伯爵 林 董 撰

序

支那者。宇內舊邦之一。而文化夙開。國威大張。疆域之廣。戶口之繁。振古以來。未聞有可比肩者。而其間運祚屢遷。文物制度之經變革者。不一而足。民俗慣習亦極複雜。有不可得而詳悉者存焉。外邦人而一朝欲紀述之。業豈容易。夫四百之州廣矣。而車悉同其軌。四億之人衆矣。而書皆同其文。狹袖濶袴。四民齊曳辯髮。一見雖不復見有彼此之別。而細察

其裏面。則有匈奴。有漢人。又有羌種與苗族。而各異言殊俗焉。則欲互通商貿易。非須象胥。則不能也。宜矣。觀察之難也。蓋我邦之與彼相距。僅不過一葦航。而修交親善者。將超二千年而上。而國運之消長隆替。固自不得不相影響。迺爲我邦人者。豈可不詳察其政治風俗之沿革。審諦營生致富之淵源。以豫爲之所哉。東亞同文會者。有見于茲。乃使其教授根岸氏。信。當支那事情編纂之任。氏也於是。拮

据多年。漸告竣功。題曰支那經濟全書。凡自物產貿易貨物品類及關稅通貨之大。至日常生活嗜好勞働之微。網羅拾收。歷々如指掌。洵可謂未曾有之珍書也。嗚呼。非足親踏其境。身親接其物。眼光透骨精義入神者。烏得有如斯大著乎。其果爲經國濟世之津梁否者。在當業者之採擇如何矣。是爲序。

明治戊申五月

樞密顧問官 子爵 清浦奎吾識